

取扱説明書

ZDS3000 CUSTOM

Zen



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

この度は、ZENN ZDS3000 CUSTOM をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

本製品の性能をフルに発揮させ、未永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所でご使用下さい。
4. 機材への挟みこみ等、無理な力が加わらないよう、ご注意下さい。

バスドラム & キックペダルの組み立て

1. ドラムのパーツを確認する。

バスドラム	1 個	
ドラムヘッド(黒・フロント用)	1 枚	
ドラムヘッド(白・ボトム用)	1 枚	
フープ	2 個	
テンションキーロッド	16 本	
フック	16 個	
チューニングキー	1 個	

2. ドラムヘッド・ボトム(白)をプレイヤー側に置く。



3. フープをきっちりと合わせる。



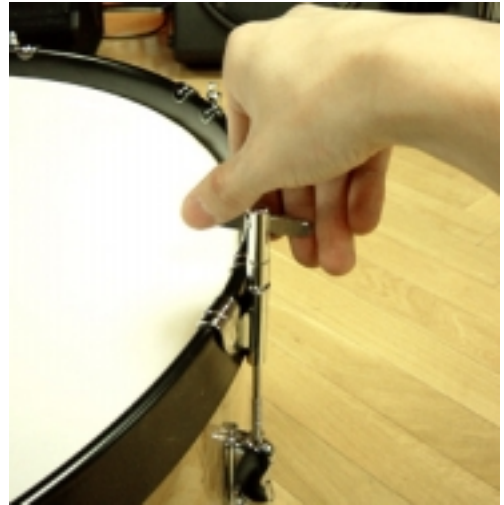
4. フックにテンションキーロッドを通して、フープに引っ掛けつつラグ穴に軽く回し入れる。
他 7箇所も同様にセットする。



5. 一度、8箇所を指で締め付ける(均等に締めあがるのでチューニングの土台ができる)。



6. チューニングキーで1~2回転ずつ、点対象で均等に締め上げていく。



7. あくまでも点対象で徐々に締め上げることがチューニングのポイント！



8. ドラムヘッド・フロント(黒)もボトムと同様に
てセットアップします。



9. バスドラムのスパーを立てて固定します。



10. スパーを引き伸ばして固定します。反対側
も同じ長さで同様に立ててください。



11. ドラムペダルもここで解説します。写真のよ
うにチューニングキーでビーターを固定して
ください。



12. バスドラム・ボトム(白)側のフープへ噛ませます。



13. ドラムペダルをフープへ平行に噛ませたら、最後にペダルのペグを締め上げて固定します。



14. バスドラム、完成！



スネアドラムの組み立て

1. スネアのパーツを確認します（通常は組み立てられて出荷されます）。

スネアドラム	1 個	
ドラムヘッド（白・トップ用）	1 枚	
ドラムヘッド（クリアー・ボトム用）	1 枚	
フープ（トップ用）	1 個	
フープ（ボトム用）	1 個	
テンションキーロッド	12 本	
スナッピー	1 個	
チューニングキー	1 個	
スネアスタンド	1 本	
プラスドライバー（別途必要）	1 本	

※ボトム用フープにはスナッピーを取り付けるための穴があいています。

2. スネアドラムヘッド（白）を置きます。



3. フープ（トップ用）をセットします。



4. テンションキーロッドをラグ穴へ通し、指で締め上げる。同様に他 5箇所も締め上げます。



5. チューニングキーで点対象に、均等に締め上げます。



6. スネアドラムヘッド(クリアー)もボトム側へ、以上と同様に張る。ただし、スナッピーを後から通すので、穴の向きを確認してから取り付けるようにしてください。



7. スナッピーをヘッド上に置いた様子。



8. スイッチと反対側のベルト固定台座にナイロンスナッピーベルト(長い方)を通す。この際スナッピーがヘッドの真ん中になるよう調節する。



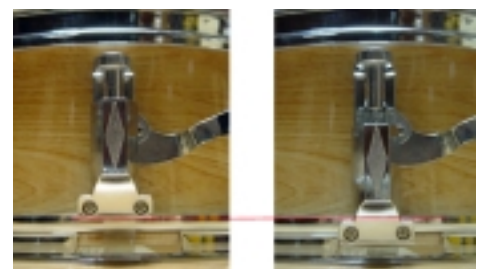
9. ナイロンスナッピーベルトを固定するにはプラスドライバーを使う(別途必要)。ネジ山が潰れてしまわないよう気をつけましょう。



10. スイッチは基本的に写真のような状態でスナッピーベルトを固定する(写真はトップとボトムが逆さまになっています)。



11. スイッチはコントローラー(上部にあるネジ)で高さを調節できます。最初は左に回して最大限まで高さを下げてください(右写真を参考)。



12. スナッピーベルトをルーズに固定します。



13. スイッチを入れ、コントローラーを右に回してスナッピーがきっちりと張るように調節します。



14. スネアスタンドの3脚を広げ、適度な長さに伸ばします。



15. スタンドの全体図。



17. スネアスタンドにスネアを載せて完成！！



ハイハットシンバル&スタンドの組み立て

1. ハイハットスタンドとハイハットシンバル 2 枚、用意します。



2. ハイハットスタンドのフットボードを 2 箇所の穴へ通して固定します。



3. スタンドレグがしっかりと床に立つように、固定します。



4. ハイハットクラッチをスタンドから取り外します。



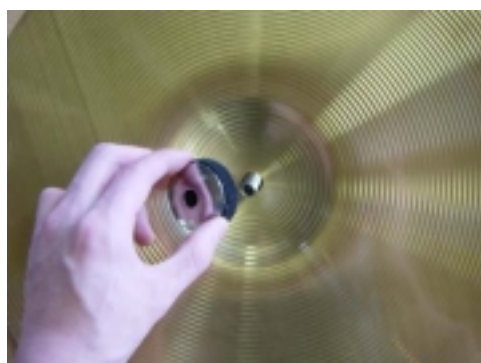
5. 右の写真のように分解します。



6. 1枚のハイハットシンバルの凸方向から、ハイハットクラッチを差し込みます。



7. 凹方向から挟み込むようにして残りのハイハットクラッチをはめ込みます。



8. ハイハットクラッチでシンバルを挟み込むと写真のようになります。



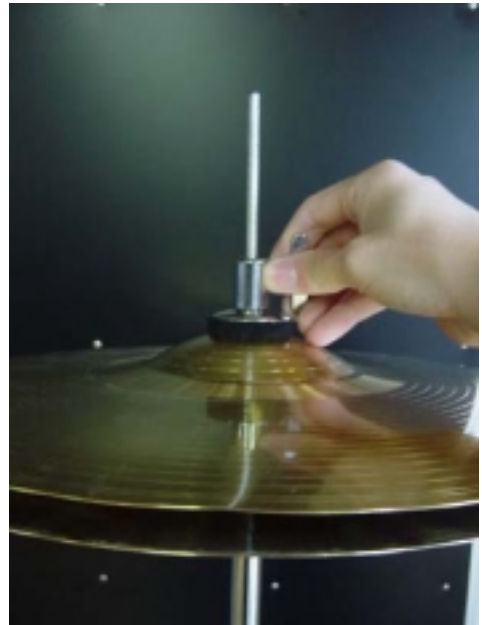
9. ハイハットスタンドに残りのハイハットシンバル1枚を差し込みます。



10. 先ほどハイハットクラッチで挟み込んだハイハットシンバルを上から差し込みます。



11. 最後に2枚のシンバルを2～4cmほど放してハイハットクラッチのペグを固定してください。これで演奏が可能な状態になりました。



フロアタムの組み立て

1. フロアタムのパーツを確認します。

フロアタム	1 個	
ドラムヘッド(白・トップ/ボトム兼用)	2 枚	
フープ	2 個	
テンションキーロッド	12 本	
フロアタム・レッグ	3 本	
チューニングキー	1 個	

2. フロアタムのトップ(ラベルで見分ける)にドラムヘッドを置きます。



3. フープを置きます。



4. フックにテンションキーロッドを通して、ラグに指で回し入れる。他 7 箇所も同様にセットする。



5. 付属のチューニングキーで点対象に、均等に締め上げる。以上の作業をボトム側でも行う。



6. フロアタム・レッグをブラケットへ通し、写真のように外側へレッグが向くように固定する。他の 2 箇所も同様に固定する。



7. フロアタムの完成！！
この手順はスネア、バスドラム、トップタム全てに
共通します。



ドラムセット チューニング・ガイド

パート1 ～スネア、タム、フロアタムのチューニング～

1. まずシングル・ヘッド、つまり打面側のヘッドのみを張り、一番大きく、よく音が響くポイントまでヘッドを締め上げましょう。この時、テンションボルトは1～1.5回転ずつ回し、均等に締め上げる事を心がけてください(※フロア → 13"タム → 12"タム → スネアの様に、低い方から順番に叩き、ちょうど競馬のファンファーレのような音程差がつくようにチューニングするとバランスのとれたドラムサウンドになります)。



2. ボトム側のヘッド(裏のヘッド)を張ります。裏のチューニングをしっかりしないと、打面側のチューニングの音程が逆転してしまったりすることがあります。一般的に表と裏のヘッドの音程差によって次のような効果が得られます。
(ア) 表と裏のヘッド音程差が近い→「トーン」という素直なサスティンが得られる
(オーソドックスなジャズっぽい感じ)
(イ) 表の音程が裏より低い→フロアタムや低音を鳴らすタムだと、「トウン」とサスティンが短くアタックが強調される(ロックっぽい感じ)
(ウ) 表の音程が裏より高い→ドラムセットの中で高音を鳴らすタム、あるいは胴の浅いタムだと、「トウン」と立ち上がりの鋭い短めのサスティンが得られる(ラテンっぽい感じ)
(注意: 上記の音程差は半音～全音程度が目安です)
3. まずはフロアタム、13"タムは裏のヘッドを表より緩めに張り、12"タム、スネアは裏のヘッドを表と同じか強めのテンションでチューニングしてみましょう。フロアからタム、スネアまで音を回してみて、音程差が明確で、響きが良いドラムサウンドになればチューニング完了です。
(さらにサウンドを整えたい場合は、「ミュート・ガイド」を参照してください)

パート2 ～バスドラムのTuning～

1. 一般的なロックドラマーは「ドッ！」とアタックが効いた、重低音がお腹に響くサウンドを目指しているのではないのでしょうか？ここではオーソドックなロックサウンドのバスドラムのチューニングを行います。トラディショナルなブルースやジャズ、ブラスバンドなどを演奏される場合はパート1を参考にしてチューニングしてください。
2. アタック重視でチューニングを行う、簡単な方法は打面（キックペダルで叩く方）のヘッドをしわが寄る直前まで緩める事です。表のヘッドはやや張り気味にするとアタック音が増します。
3. さらにサスティンを止めるために、バスドラムの中にミュート材を入れてください。はじめはいらない毛布などを、「入れすぎかも？」と思うくらい入れてみてください。その後に好みに合わせてミュートを足すか、抜くかしてサスティンを調整してください。
(さらに細かいミュートについては別途「ミュート・ガイド」を参照してください)



バスドラムの中には写真のように毛布や吸音材などを詰め込むと、余分なサスティーンをカットできます。こうすることで、「ドーーーーン」という音が「ドスッ！」とシャープに変化します。

ドラムセット ミュート・ガイド

パート1 ～何のためのミュートか？～

1. ミュートとはタムやバスドラムのサスティン(残響)で余分な倍音を消すために行います。ミュートをする事で、音量、音質が変化して理想のサウンドにコントロールできます。またレコーディングやPAのマイキングにも有効です。
2. ミュートは正しくチューニングされたドラムをさらにコントロールするためのものです。まずはしっかりチューニングをした後、調整するように心がけてください
3. 「マイク録りで他のタムの音がうるさい」、「変な共振の音がする」、「バスドラムのサスティンが長すぎ」、「もう少し落ち着いた音にしたい」などの場合は、ミュートでサウンドコントロールにチャレンジしてみましょう。

パート2 ～スネアのミュート～

1. ガムテープ・ミュート・・・10cm程に切って、ヘッドに直接張ります。必要に応じて2～3枚張ってもOK。また、テープを円筒形に丸め、リム寄りに貼り付ける方法もあります。音質の変化が少なくいい方法です。



2. ペーパー・ミュート・・・ペーパータオルやティッシュペーパーを折りたたんで、ガムテープなどでヘッドに貼り付けます。ミュート効果としては高い効果を期待できますが、音質が変化しやすいので使いすぎに注意が必要です。



3. リング・ミュート・・・いらないヘッドや古くなったヘッドを円周状に切り取って、スネアに置く方法です。円周上に広い範囲でミュートを行うため、余計な倍音は大幅にカットされます。最近は各メーカーから市販されています。



4. タオル・・・60年代のロックではやった手法です。タオルをリムにかけてクリップなどで固定します。打面にかぶせるようにしてタオルごとたたく奏法もあります。



パート3 ～タムのミュート～

1. タムは好みに応じてミュートしないことも多いです。そのサスティンや倍音がタムタムの醍醐味というプレイヤーも多いからです。
2. それでも、マイク録りのため、余計な倍音や共振を止めたい場合には、ペーパー・ミュートやガムテープ・ミュートを利用します。これも使いすぎに注意しましょう。



パート4 ～バスドラムのミュート～

1. 毛布/クッション/枕・・・フロントヘッドや打面にどれだけ触れているかで音質が大きく変化します。しっかりとミュートしたいロック派ドラマーにお勧めです。
 - ① ミュートを打面に接触させると？→「ドッ」とサスティンが大幅にカットされ、アタックが強い音になります。
 - ② ミュートをフロントヘッドに接触させると？→「ダウン！」とシャープなアタック音と短めのサスティンが残ります。
2. 新聞紙の細切れ・・・大量に作るのが大変ですが新聞紙を短冊状に切り大量に詰めると音質の変化を抑え、サスティンのみをコントロールすることができます。
3. スポンジ、吸音材・・・新聞紙同様、内側に適当な大きさのスポンジを固定することで、自然なサスティンのコントロールがおこなえます。音響用の吸音材も効果的です。
4. ガムテープ・・・ビーターが当たるポイントに貼り付けるとアタック音がシャープに変化します。ただし、長期間張りっぱなしにすると粘着の層が出てきて、見た目が汚かったり場合によっては演奏に支障がでます。まめに剥がしましょう。市販でインパクトパッドという商品、そちらは剥がす必要がありません。
5. 毛布＋ウェイト・・・ウェイトは硬くて重たいものならなんでも大丈夫です。毛布だけの場合と違いより自然にサスティンや倍音を止めるだけでなく演奏中にミュートがずれることを防ぎます。ただし運搬中は取り出してください。

6. タオル・・・打面のビーターが当たるポイントの下からガムテープなどで貼り付け、ぶら下げます。アタック音のコントロールと共に、余計な倍音やサスティンを止める効果があります。バスドラムの中にいれたミュートで足りない場合に合わせて使うと効果的です。



パート5 ～シンバルのミュート～

1. ライド・シンバルのサスティンや倍音を止めるために行います。基本的にテープを適当な大きさに切って、表側に必要なだけ貼り付けます。
2. 大きめにカットして表に張り、わざとその部分を叩くことで柔らかいライド・サウンドを演奏するケースもあります。

